

交差耐性はARTレジメンの変更を計画する際の重要課題

- 交差耐性とは、特定のARVで選択されるHIVの変異が、その薬剤だけでなく同じクラスの他の薬剤に対しても耐性を付与することである。
- 交差耐性が発現する割合とそれが同じクラスの他の薬剤に影響を及ぼす程度は、ARVによって異なる。
 - 第1世代のNNRTI（エファビレンツ [EFV] およびネビラピン [NVP]）間とINSTI（ラルテグラビル [RAL] およびエルビテグラビル [EVG]）間には、高度の交差耐性がある。
 - NRTI間で交差耐性が生じる可能性は異なる。
 - ラミブジン（3TC）とエムトリシタビン [FTC] 間には完全な交差耐性がある。
 - PI間と第2世代のNNRTI間では、VFの間に多くの薬剤耐性変異が蓄積するため、交差耐性の程度が高くなる。
- 交差耐性のパターンを理解することは、VFが認められた後の新しいARTレジメンを計画する際に重要である。